

公表

## 事業所における自己評価総括表（児童発達支援事業）

○事業所名	社会福祉法人恵友会 こども発達支援センターピーチ		
○保護者評価実施期間	令和6年 12月 3日		～ 令和7年 1月 17日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	68	(回答者数) 48
○従業者評価実施期間	令和6年 12月 3日		～ 令和6年 12月 13日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	16	(回答者数) 16
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 2月 21日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1 集団療育		常に保育士・言語聴覚士・作業療法士・児童指導員と多職種で集団療育に入り、多面的な支援が出来るように意識している。また、発達段階や課題、年齢に応じ、保護者通園・単独通園・年長グループ・グループ学習といろんな形態の集団療育を提供し、その子にあった学びが出来るようにしている。	職員を多めに配置しているので、多職種で連携しながら、さまざまな集団療育を行えるような体制を続けていく。また、どの職員も適切な関わり方ができるように、職員の資質向上を心がけ、施設全体のボトムアップを図っていく。
2 保護者支援		ペアレントプログラムやペアレントトレーニング、セラピストの勉強会など、保護者の方も学んだり、相談しあえる環境を作っている。また、モニタリング時期だけではなく、必要な時にはいつでも個別に対面やライン・電話などでタイムリーに相談できる機会を設けている。通常の保護者通園の他に、年に2回父子通園も行っている。	ピアカフェや保護者会の機会を増やし、気軽に相談できる場所の確保や兄弟児支援につながる企画を検討している。お母さんだけではなく、お父さんやおじいちゃん、おばあちゃんなども含めて、適切な関わり方・困り感の低減を図れるように、それぞれの立場の方の支援を行えるようにしていく。
3 地域支援		家庭支援センターや教育委員会、児童館などと連携して、健診や勉強会、子育て相談などを行っている。地域の各種会議などにも参加しているため、地域に合った支援者支援や環境調整に微力ながら貢献している。家庭支援センターで健診なども行っているため、スムーズに療育に繋がっている。	令和7年度より、家庭支援センターからの業務受託が拡大予定である。また、幼稚園や保育園、小学校に上がる際に、それぞれのお子さんに対し、情報提供書などを作成することで、支援の引継ぎや適切な環境調整がどこでもできる体制を地域の中で作っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1 定員オーバー		定員10名のところ、R7.2時点で83名の登録児童がいるので、利用調整しても十分に利用できなくなってしまっている子が多い。職員体制の都合もあるので、定員を増やせるかどうかは現在検討中である。	職員体制をどれだけ整えられるか、療育の必要度合いに応じて、相談支援員と連携して利用調整していくことが可能なかを試行錯誤している最中である。
2 療育時間の短さ		基本は10時から13時の集団療育で、比較的短めの設定になっているのは事実である。年齢が小さい子もいるので、お昼寝の時間帯にかからないようにこの時間に設定している。長時間療育も考えたが、預かり保育のようになってしまうと療育要素がおろそかになりそうだったので、あえてこの時間帯とした。また、今年度から午後のグループ学習や土曜開所の日を増やし、療育のレパトリーを考えてみた。	・今後も月に数回だが、長めにお預かりできる日を設定していく。また、午後のグループ学習や土曜日の開催日を増やし、さまざまな利用の仕方できるように調整していく。
3 地域のなかでの交流		福祉まつりや児童館での行事、福祉のチャリティミュージカルなどに参加するなど、なるべく地域の中に出かける機会を作っている。ただ、幼稚園や保育園と比べるとレクリエーションや園外行事などが少ないのは感じている。また、発達特性もあり、外部に出た時に社会的ルールを強要せざるを得ないような場面もあるので、パニックに繋がりが、レクに参加することが余計辛くなってしまいう子も多く、レクの規格の難しさも感じている。	図書館や小学校に出かける機会などを意図的に設け、地域の中で理解・受容してもらえるように働きかけていく。また、地域の行事などにも積極的に参加し、いろんな子やいろんな立場の人と関わる機会を構築していく。